

東村山稲門会 創立25周年を迎えて

東村山稲門会
会長

山本 岩男



東村山稲門会は、1996年11月10日に所沢キャンパスにおいて設立総会を開催し、今年2021年11月で25周年を迎えます。今年は、昨年2月から世界中に蔓延した新型コロナウイルスが収束せず、8月時点では、毎日感染者数が過去最多を更新続けていました。又、東京オリンピック・パラリンピック2020が開催され、アスリートの活躍によって感動を与えられました。そんな中で25周年記念誌を発行するのは適當ではないとの意見もありましたが、こういう時こそ会員のコミュニケーションを維持する必要があるとの皆様の熱意とコロナ禍に打ち勝った証の一つとして、記念誌を発行することが出来ました。

人間の幸福は、何によって判断されるのでしょうか。その一つは良き人間関係を築けた人と私は思います。私は大多数の会員の皆さんと同じで、現役時代は会社と自宅を往復していた会社人間でした。会社の定年が近づいた時、今後の生活をどのように過ごしたら良いか考えました。多くの書物に書かれているように、その一つの解答は地域社会に貢献することです。東村山稲門会の同好会や年間行事に参加して、東村山市在住の多くの友を得ることができました。早稲田大学の卒業生は、経験と知見に優れた人がたくさんいます。会則の目的でもある「会員相互の親睦と研鑽」が可能な最も相応しい会です。今後、多くの校友が東村山稲門会に入会することを期待しています。

創立25年を迎えた今年度は、特異なことがありました。それは、東村山稲門会を創立し、会の発展に貢献していただいた有力会員が、高齢化や病気のため、数多くお亡くなりになったことです。今日の東村山稲門会があるのは、このような諸先輩会員の努力の賜物です。ここで25年に亘って会の発展に尽力して下さった物故者会員の皆様に感謝の意を捧げたいと思います。

新型コロナウイルスの蔓延は、いつになったら収束が見えてくるのでしょうか。感染力の強いデルタ変異株の出現によって、感染者数が驚くべきスピードで拡大しています。新型コロナウイルスの感染は長期化が予想されています。しかし、なにもしないで手をこまねいていても進歩はありません。「ピンチをチャンスに」の名言に従い、会員の知恵を出し合い、会の活動を維持・継続したいと思います。そんな中で、会員の持っている優れた技術力によって、ZOOMによるオンライン役員会・同好会活動が実施されたことは一つの成果です。今後とも会員の皆様の創意工夫・提案によって、新しい時代にあった活動を追求していきましょう。

東村山稲門会の喫緊の課題は、若い新入会員を増やし、多くの会員が参加したくなる魅力ある行事や同好会を企画・追求していくことです。そのためには我々役員と同好会のリーダーが率先して努力するとともに、会員の皆が、会を継続・発展させていこうという決意と熱意が必要です。今後とも会員の皆様のご指導とご協力を切にお願いします。

東村山稲門会 創立25周年記念誌に寄せて

早稲田大学

総長

田中 愛治



早稲田大学第17代総長ならびに校友会会長の田中愛治でございます。

このたび東村山稲門会がめでたく創立25周年を迎えられたとのこと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃から、山本会長を中心に会員の皆様が一丸となって多彩な校友会活動を展開され、早稲田大学および早稲田大学校友会の発展にご尽力いただいておりますこと、誠に有難く、早稲田大学および校友会を代表して心からの敬意と感謝の意を表します。

昨年から世界的に流行しております新型コロナウイルスですが、ワクチン接種が進んできているものの、依然として油断のできない状況が続いております。早稲田大学校友会におきましても、校友の皆様の命と健康を第一に、感染防止の観点から、対面で実際に集まる形でのイベントは軒並み中止となりました。しかし、東村山稲門会におかれましては、このコロナ禍を逆手に取って、場所を問わずにどこからでも参加可能なオンラインでの会議や交流を積極的に展開いただいておりますこと、まさに、“進取の精神”であり、“在野精神”であり、転んでもただでは起きない早稲田の校友ならではのたくましさであると大いに感激いたしております。皆様の“早稲田らしさ”を本当に嬉しく、とても誇りに思います。

さて、私、田中愛治が総長に就任してから、早いもので3年が経過しました。私は「世界で輝く WASEDA」の実現を目指して、総長としてこの期間、様々な改革推進に取り組んでまいりました。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けましたが、コロナ禍を超えて進化をめざす本学が取り組むべきことは、明らかになってまいりました。今年度に入ってから、キャンパスでの対面授業を可能な限り広げた教育を展開し続けることにより、感染対策を徹底しながら、早大生らしいキャンパスライフを送ってもらえるよう努めています。本来の改革の道筋に加えて、コロナ対策とポストコロナ社会を見据えた新たな施策も視野に入れて、今後は改革の速度をさらに増していく所存です。

そして、校友の皆様におかれましては、昨年から今年にかけて、コロナ禍で経済困窮する現役学生への支援として、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」に沢山の温かいご寄付を賜り、心から感謝申し上げます。お蔭様で、コロナ禍で苦しむ多くの学生を救済することができております。早稲田の後輩学生を思う皆様の優しいお気持ちに感激で胸一杯です。あらためまして、心から御礼申し上げますとともに、引き続きの温かいご支援につきましても、どうか宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、東村山稲門会の皆様におかれましても、昨年来のコロナ禍による影響が大きく及んでいることと思います。しかし、このような辛い時、逆境に強いのが早稲田人であると確信しております。校友の皆様をはじめとする早稲田関係者が、ワセダスピリットを胸にこの世界的な危機を乗り越えて行けることを心から願っております。

東村山稲門会の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念申し上げます。

東村山稲門会の皆様へ お祝いと感謝！

早稲田大学校友会
代表幹事 萬代 晃



東村山稲門会の皆様、こんにちは！

東村山稲門会の創立25周年、誠におめでとうございます！

東村山稲門会の皆様方におかれましては、ますますご壮健にて各方面でご活躍のことと拝察いたします。また、常日頃より校友会・稲門会活動に格別のご支援・ご協力を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大は、日本国内のみならず、世界的な感染流行となり、世界中の人々の生活にも深刻な影響を与えました。感染の状況や医療体制は刻一刻と変化しているものの、依然として油断は禁物であります。さらに、こうした感染拡大の影響により、在学生のご父母など家計支持者の収入とともに学生本人のアルバイト収入も激減しております。

そうした中、早稲田大学では、未来ある学生が経済的事情により学業を断念することが無いよう、本当に沢山の校友の皆様から「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」に力強いご支援を賜りました。あらためまして、誠にありがとうございます！早稲田大学校友会といたしましても、この緊急支援金をはじめとした各種奨学金等により、継続的に多くの学生を支援し続けたいと思っておりますので、引き続きの温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

また、コロナ禍で厳しい制約がある中においても、早稲田スポーツは各競技とも、選手たちが大いに活躍しています。さらに、今夏の東京オリンピック・パラリンピックでは、早稲田大学の在学生ならびに校友の活躍が大変素晴らしく、懸命に頑張っている母校の選手たちの姿から、沢山の勇気と希望をもらうことができました。やはり、早稲田スポーツの応援は、最高の感動であるとあらためて強く感じた次第です。今後も引き続き、感動のドラマを生んでもらうべく、早稲田の在学生・校友の選手たちを精一杯応援してまいりたいと思っております。

世界中が先行き不透明な厳しい状況が続いておりますが、このような時代だからこそ、我々早稲田大学の校友は、これまで培ってきた「たくましい知性」と「しなやかな感性」を存分に発揮して世の中に貢献するとともに、オール早稲田の一員として、今こそ一丸となって「世界で輝く WASEDA」を実現すべく母校を応援していこうではありませんか！

早稲田66万校友の力が結集されれば、より一層強力な母校・後輩への支援となります。今後とも校友会活動を明るく楽しく充実させながら、母校早稲田が世界で輝けるためのご支援ご協力を賜れば幸甚に存じます。

最後になりますが、コロナ禍が収束した後、東村山稲門会の皆様と直接お会いして大いに交流し、一緒に校歌を歌える日が来ることを心から楽しみにしております。その日を目標に、早稲田大学校友会も、少しずつでも明るく前進していきたいと思っております。皆様の早稲田大学への熱き思いに感謝し、東村山稲門会の益々のご発展と皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

東村山稲門会創立二十五周年記念に寄せて

東村山市
市長

渡部 尚



東村山稲門会創立二十五周年、誠におめでとうございます。

日頃より山本会長を中心に会員の皆様が一丸となり、多彩な稲門会活動を積極的に展開されているとともに、市民雑学講座等を通じて市の文化向上にも大変貢献いただいていることに対して、心から感謝を申し上げます。

東村山稲門会は、東村山市に住む早稲田大学校友による「会員相互の親睦と研鑽」「早稲田大学の発展への寄与」「東村山市の文化向上」を目的に、地域社会において世代や立場、活動分野を超えた人間的触れ合いの場を作りたいという趣旨で発足され、1996年11月に所沢キャンパスにて設立総会が行われたと伺っています。それから25年が経過した現在、会員数は160名余を誇り、総会をはじめとした会員相互の交流会のほか、テニス同好会など16の同好会、稲門会ニュースの発行、100回を超える市民雑学講座の開催など、設立当初に掲げられた趣旨を見事に実現され、発展を続けられており、深く敬意を表します。

さて、昨年より新型コロナウイルス感染症がまん延していることから、従来のような対面での稲門会活動が制約され、総会やお花見会等も中止を余儀なくされておりますが、役員会等をオンライン形式で開催するなど、新しい生活様式を踏まえた稲門会活動を試行されていると伺っております。感染症は、人々の命を脅かし、人流を抑制することとなりましたが、その一方で人と人とのつながり（交流）の重要性を再確認させるとともに、地域と住民の距離を近づけるきっかけとなり、市民の皆様が東村山に顕在・潜在する価値に目を向ける好機になったとも言えるのではないのでしょうか。このような状況下ではありますが、東村山に住まう校友の皆様が、このまちで自己実現を図り、笑顔で暮らすことができるよう今後も皆様と一緒にまちづくりを推進していきたいと考えております。

少し市政について触れさせていただきますと、令和3年4月より第5次総合計画がスタートいたしました。本計画のサブタイトルを「わたしたちのSDGs」とし、将来ビジョンを「みどりにぎわい いろどり豊かに 笑顔つながる東村山」とさせていただきました。人口減少・少子高齢化という時代の大きな転換期を迎え、科学技術の進展など社会環境が急激に変化し、持続的な発展が大きな課題となっています。誰もが笑顔で生涯にわたり幸せに暮らすことができるまちを未来に引き継ぐとともに、多様な魅力をもったまちで、様々な人がその個性を活かし、高めあいながら、笑顔でつながり、さらにその笑顔が未来にもつながる東村山の実現を目指し、コロナ禍という未曾有の事態の中ではありますが、くじけず、希望の炎を心に燃やし、我がまちの可能性と底力を信じて推進してまいります。

結びに、東村山稲門会の一層の発展と会員の皆様のますますのご健勝を祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。誠におめでとうございます。

東村山稲門会創立 25 周年によせて

～東村山稲門会役員、会員、ご家族の皆様へ～

東村山三田会

会長

紺田 俊哉



東村山稲門会に於かれましては、今年 2021 年 11 月をもって創立 25 周年を迎えられる由、誠におめでとうございます。

会員の皆様・ご家族を含めての親睦・研鑽、早稲田大学発展への寄与、東村山市の文化向上を貴会の目的として掲げられ 25 年という長きにわたり、16 もの同好会活動に加え、多彩な行事を積極的に続けて来られたことに改めて敬意を表します。

ちなみに私ども東村山三田会は、2014 年 4 月に創立され、本年 2021 年 4 月に 8 年目を迎えました。現在 9 名の役員を中心に約 90 名の会員とその家族とともに 8 つの同好会活動やクリスマスパーティー、コンサート支援等、会員・家族相互の親睦・交流、地域社会の発展への貢献を目的として活動を行っております。

貴会におかれては創立 10 周年の際、ボニージャックスを迎えてのコンサートに加え、東村山稲門会の歌を作られたと伺っておりますが、貴会ご自身の歌まで持っておられることには驚くとともに何とも素晴らしい事だと思います。

コロナ禍という新たな脅威に世界が包まれ、日本、とりわけ東京は全く予断の許されない状況にありますが、お互いに会の掲げる目的の遂行、なにかんづく当面は地域社会へのいろいろな形での貢献を念頭に更に努力していきたいものです。

貴会に比べますと私ども東村山三田会はまだまだその歴史が浅く、今後とも貴会から学ぶことが沢山あると思います。

引き続き稲門会、三田会間の交流を拡大し、共に発展してまいりたいと思いますので引き続きご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

改めましてもう一度、東村山稲門会創立 25 周年大変おめでとうございます。東村山三田会一同心からご祝福申し上げます。